

平成28年度第2回

札幌市市民活動サポートセンター運営協議会

会議録【ダイジェスト版】

日時：平成29年2月2日（木）午後7時開会
場所：札幌エルプラザ公共施設 2階 会議室3・4

1. 開 会

○寺田札幌エルプラザ公共4施設 館長

本日は、事業の報告だけではなく、利用状況や新年度の事業計画の概要についてもお伝えいたします。実践者、研究者のお立場から、市民活動の促進、活性化のためのご提案をいただければ、ありがたいと思っております。

○事務局（佐藤指導員）

ここからは、運営協議会設置要綱第6条に基づき、指定管理者であります札幌エルプラザ公共4施設館長の寺田が進行させていただきます。よろしく願いいたします。

2. 議 事

○寺田座長 次第に沿って会議を進めてまいります。

本日は三つの議題がございます。議事の一つ目の平成28年度事業実施及び施設利用状況中間報告について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（古野市民活動係長） 初めに、施設利用状況について説明いたします。

前年度同月と比べて利用件数はふえていますが、利用人数が若干減っています。

登録団体については、12月末現在で2,624団体の登録がございます。新たに登録した団体は平成28年4月から12月で119団体、削除した団体は23団体でした。

このように、市民活動団体の登録数は増加しており、利用件数も上がっているが、利用人数が減っている点については、小規模な団体が活動を初めているケース、または、既存の団体の規模が縮小しているケースの2パターンが想定できると考えております。

また、施設外利用の3件、9,871人という数字に注目します。これは、12月に3日間、地下歩行空間で実施したイベント、マチなか×NPOと、寄付月間キャンペーンで実施したパネル展、フォーラム直前トークの人数が反映しています。

センターから出て事業を実施することで、サポートセンターの存在を知らない方々に向けた市民活動のPRができた機会だったのではないかと再確認しました。

前回の第1回目の運営協議会の際には、相談件数の減少傾向を解決するためのご意見をいただきました。いろいろな相談の形があってもいいのではないかと、待っているだけではなく、どんどん拾いに行ってみてはどうかなどのご提案がございまして、相談員とも情報共有しながら、現状の分析や今後の対応について検討しております。

その結果、相談員が利用者に積極的に声をかけてくれたり、相談者と我々職員をつなげてくれたりしています。残念ながら、今年度はなかなか数字に反映はなりませんでした。相談員側も待っているだけではない相談のあり方について意識していただけるようになったことも一つの成果だと思っております。

続けて、平成28年度の事業実施状況についてお伝えいたします。

ここでは重点目標の振り返りをお伝えします。また、新規事業やレベルアップ事業として取り組んだ成果については、それぞれの担当者から報告いたします。

初めに、平成28年度の重点目標は、2点ございました。1点目の市民活動団体の活動レベルやニーズに即した研修機会の提供と、子ども・若者及びNPO法人へのスタート支援の機会拡充について、事業としては、NPOはじめて講座とNPOマネジメント講座の二つの事業が該当いたします。

はじめて講座については、実施したどの回も安定した参加人数でした。参加者の多くが初めてサポートセンターに来たという属性の方だったことから、サポートセンターを知ってもらいきっかけとして必要な事業だったのではないかと感じております。

NPOマネジメント講座については、今年度は6テーマで実施いたしました。定員充足率の面では参加人数の確保に苦慮した事業となってしまいましたが、少人数の実施のよさとして、講師との距離が近く、参加してくださった皆さんの満足度は高いものとしてアンケートの結果にあらわれております。

2点目の子ども・若者及びNPO法人へのスタート支援については、小学生を対象とした、子どもボランティア体験隊、さっぽろ子ども記者、若者を対象としたNPOインターンシップ、そしてNPO法人設立講座でした。

ボランティアや記者の体験をとおして、「困っている人のために活動している団体があることを知った」、「自分から声をかけることの難しさを知った」などの感想をいただいています。子どもたちが、体験の中からいろいろな気持ちと向き合うことができた事業となりました。

参加してくれる子どもたちはリピーターが多く、さまざまな切り口から市民活動団体について学ぶことで、子どもたち自身の自主性や相手を思いやる気持ちが育っていると感じております。

NPOインターンシップは、おおむね30歳までの若者を対象に行っており、NPOのスタッフ側として参画しながら、その団体が目指している目的などを体験する事業です。

今回は、参加者の中に高校生がいて、広報さっぽろを見て自ら手を挙げて参加してくれた実績があります。この実績は来年度に向けてアプローチ次第では参加者がもっと広がる可能性を感じております。

○事務局（山崎指導員） 寄付月間キャンペーンについて、報告いたします。

私たちは寄付月間キャンペーンに、賛同パートナーとして参画を始め、寄付月間2016公式認定企画として、三つの事業を行いました。札幌の寄付の現状を伝えて、市民が寄付行動を考えるきっかけにつながっていったらと考えたものです。

11月に実施した「寄付の教室」は、子どもを対象にNPOと寄付文化について学ぶワークショップです。参加した児童は、夏に実施した子どもボランティア体験に参加した子どもがとても多くて、社会貢献に必要とされるボランティアと寄付を学んで、両方学べる機会を提供できたということは、大きな成果であったと思っています。

子どもたちの感想には、「寄付はいろいろな人が協力し合ってできること、それから寄付をされるとうれしい気持ちになるとわかった」と寄付の大切や、思いやりについて理解したという感想がとても多くて、私たちも感動した事業になりました。

寄付フォーラムでは、テーマを「未来につながる寄付のカタチ」としました。札幌市内に約900あるNPO法人の、平成27年度の決算報告から、受け取り寄付金額が多い団体を調査しました。そのうち、上位になった10団体から3団体を選び、パネリストとしてご登壇いただきました。

質問や意見を取り入れながら、参加型で実施し、工夫をしながら進めることができました。登壇者との距離が近く、その点では満足度の高い感想が寄せられています。

NPOの寄付集めというテーマと法人の調査は、初めて取り組んだものだったのですが、さまざまな分析ができる調査結果となり、このように、根拠を調べることも事業の展開につながっていくのだなと感じました。

パネル展では、寄付月間の紹介、子どもワークショップの紹介、札幌市さぼーとほっと基金と私どもの財団で行っている、こども基金さぼろスマイルキッズの紹介を1カ月間行いました。「学校では教えてくれないことなのでいい取り組みですね」との感想もいただきました。

○事務局（田村指導員） マチなか×NPOについて報告いたします。

マチなか×NPOは、センターの実施事業の中では人が集うという意味では、年間の中で最も多くの方にかかわっていただいた事業です。3日間の合計参加人数の中には、出店団体のスタッフと、当日のボランティアスタッフ、それから来場者が含まれています。昨年度と比べると約2倍に増えております。全体的に集客率が上がりました。

今年度、特に力を入れた点は実行委員会です。8月に企画を始めた段階から検討事項や予算の用途の決定などにかかわっていただきました。その結果、参加団体の声を運営に具体的に反映することができて、全体的な一体感をつくることができました。運営面においても、当日の事前準備などももっとこうしたほうがいい、などの意見を積極的に出し合っていたいただき、みんなで一緒に事業をつくっていくことができました。

そのほか、実行委員会で動画作成ができるNPOの方にご協力いただいて、出店団体の15秒紹介動画をつくりました。

また、あわせて12月の寄付月間キャンペーンを盛り込み、地下歩行空間を通る市民に寄付文化の啓発を行えたと思います。

参加した団体からは、「ほかの団体の活動を直接見ることができ参考になった」、「団体の利用者が販売を実践する機会としてよい経験になりました」といった感想をいただき、さらに、アイデアもいろいろいただきまして、センターがこういった場をつくっているろなきっかけをつくっていくことも大切な役割だと感じることもできました。

○事務局（佐藤指導員） 情報センター活用事業を報告いたします。一つ目は、サロン事業「しみサポつながるカフェ」です。

その事業の内容により、情報センター内のテーブル、椅子の配置を中心にしたり奥に置いたりレイアウトを工夫することもできました。

また、今まで情報センターを利用したことがない方も、参加した機会に情報センターに登録していかれる方も多くみられました。

二つ目は、トライアル出展in情報センターです。情報センター入り口付近に出展したことで、お客様が立ち寄りやすく、出展団体からも大変好評をいただきました。

情報センターに場所を変更した効果として、団体の運営活動資金の売り上げが大きく伸びたこと、新聞社からの取材があったことなどが挙げられ、市民活動団体のPRに大きく貢献できたと考えます。

○事務局（古野市民活動係長） 平成28年度の事業の継続中の事業、2件について進捗状況を説明いたします。

市民活動促進学生プロジェクトは、隼田委員と情報大学の学生を中心に協力していただいております。現在進行中の事業です。寄付の教室や子ども記者事業では、学生は子どもたちのサポートをするとともに、子どもたちの様子を撮影した映像、写真の記録を編集して、ホームページのコンテンツの作成をするというのが最終目的です。

また、子どもたちに伝える市民活動啓発ゲームというアイテムの開発なども行っていることから、参加している学生自身も市民活動を学び、その魅力を伝える役割を担う、時間をかけて学生自身も変化していくことをとても楽しみにしている事業です。

もう1件が2月中旬から市民団体に向けたアンケートを実施する予定です。このアンケートは、来年度の新規事業につながる内容にしたいと検討しています。今回は、市民活動団体に向けて、子ども、若者に向けたプログラム展開の可能性を探る内容にしたいと考えております。

○高橋委員 マチなか×NPOのところで、参加者からいろいろアイデアをいただいたとあったのですが、いろいろとは具体的にはどんなものか、教えていただけますか。

○事務局（田村指導員） 来年度に向けていただいたアイデアとしては、例えば、各出展ブースの紹介をカメラから映像をモニターに映して紹介する、現地で生中継のようなことができたらいいのではないかと、時間に関して、もっと早い時間がいい、もっと遅い時間までやったらいいのではないかなど、幅広いご意見がありました。

時期について、月の何日ぐらいがいいとか、季節はこのくらいだったらもっとよかったとか、運営に関してのいろいろなご意見もたくさんいただきました。

○宮本委員 私は、マチなか×NPOのお話を、もう少しお聞きしたいと思いました。

人数の報告をいただいたのですが、もう一つ気になったのは、各出店ブースは、販売をしていて、どのぐらい売り上げがあったのかが気になったのです。売り上げはアンケートなどで聞いていますか。

事務局（田村指導員） いいえ、聞いておりません。

○宮本委員 私も、イベントを開催するときに、アンケートに売り上げがどのぐらいあったかというのを聞いて、また来年参加して売り上げがどのくらいだったか、比較することができるのではという気がします。

そうしていくと、出店の人たちは、お客さんがそれだけ来たということで出店した意味を持ったかもしれないのですが、やっぱりどのぐらい売り上げがあったかというところで、また来年も出店したいと思うか、1日を使うというところで、本当に意味があったかどうか

かというのが、よりはっきり見えてくるのではないかと思います。

○事務局（古野市民活動係長） 売り上げの面では、やはり参加する団体の皆さんも気になるところだと思います。今回は、たくさんの団体が一堂に会することの相乗効果があったのではないかと感じております。

○奥山委員 私もマチなか×NPOの実行委員でしたが、どちらかというとも来場者目線で参加したのですけれども、いろいろなブースを見て回っても物販をしているだけにしか見えないようなところが多くありました。売り上げが上がるのはとても大事な視点ですが、では、なぜそれを売っているのかとか、先ほどお話のあった市民活動、NPOの活動について市民に知ってもらうという意味では、ただ物販しているところで終わってしまっているような気がしたのです。

ですから、パネルのテンプレートをつくって、それに書き込めばいいだけにしてあげるでもいいと思うのですが、こういう活動をしているから、こういうものを売っているのですよ、もしくはこういうものを売って、この売り上げでこういうことをしているというストーリーが見えるような形になっていると、もしかしたら共感を生んで売り上げがより上がるかもしれませんし、より市民活動について知っていただける場になるのではないかと思います。

○寺田座長 貴重なアイデアをありがとうございます。

○隼田委員 今回の奥山委員の話聞いて思い浮かんだのですが、物販をするときに、例えば、団体の皆さんは物と一緒に自分の団体のPRをするようなものはお渡しになっているのでしょうか。

それとも、それは団体によって違うのか、全体としてそういうことをやりましょうという話があったのか、お聞かせいただけますか。

○事務局（古野市民活動係長） 地下歩行空間の決まりごととして、ショップカードを渡すことになっているので、すべての団体がショップカード的なものを発行しています。そのカードに、どれだけ自分の団体の思いを込めるかは、団体それぞれだったと感じております。

今回は実行委員会形式で行っているのですが、奥山委員のような意見、この団体はこういう活動をしている団体ですということを掲示したほうが良いという意見がありまして、それぞれの団体のブースのところに掲示していました。

ただ、お客さん目線で見ると、そこが少し小さかったのかな、アピールが足りなかったのかなと反省しております。

こういった市民活動団体なので、それぞれパンフレットをつくっている団体もおりますので、まとめてパンフレットを置くスペースもつくっていたのですが、会場の中では目立ちにくかったというところも反省でした。

○隼田委員 もしそうであれば、パンフレットが置いてあるコーナーもあるべきだと思うのですが、必ず買っていただいた商品にそういうものをつけるということをルール化しておいて入れておくと、良いのではないのでしょうか。実施時期が寒い時期だと思うので、じ

っくりパネルを見るというのは、お客さんとしてはなかなか難しいと思うのです。でも、買い物をして家に持ち帰ってそれを見るたびに、こんな活動をしているのか、ここで参加できるのか、ここで買えるのかとなると、その団体に相当プラスに働くこともあると思うので、そういうルールをつくるということと、そういうものを持っていない方には、先ほど奥山委員がパネルのテンプレートとおっしゃっていましたが、チラシのテンプレがあってもいいと思いました。

それから、このマチなか×NPOもそうですけれども、全体的なイベント事の実施時期を見ると、ちょっと後ろに偏り気味という気がしています。通年できちっと計画的にやられているものもあるのですが、人がたくさん集まってくるのは冬だとちょっと難しいのではないのでしょうか。外の天気によ過ぎるときはそっちに行かれるかもしれませんが、もう少しいい時期に実施できると、また違った形で滞在時間が増えたり、参加の度合いが変わったりするのではないかと思いますので、そのあたりも次年度以降の計画でご検討いただければと思います。

○中田委員 最初に言った、寄付フォーラムについて、先ほどの事務局の説明に補足する形になるかもしれませんが、意見も込めて申し上げます。

私は、寄付とかは余り好きではないのです。ただ、これに出た理由は、事務局からお知らせが来たものですから、ちょっと参加してみました。私は、NPOでもないし、純粋な技術屋で、かなりかたい分野に所属しています。

このフォーラムの最初の団体報告は、野良猫を保護して世話しているというNPOの方でした。きっかけは、10年前ぐらいに野良猫を拾って自宅で飼い始めて、自宅でやっていたけれども、だんだん猫がふえてきて、そのうち、喫茶店を買ってやっていますということでした。

2番目は、ランナーズサポートということからもわかるように、北海道マラソンとかを主催している事務局の理事をしている方で、予算規模が一番大きくて2,000万円か3,000万円だったと思います。NPOの年間予算というと、私はせいぜい数十万円単位だと思っていたのですが、参加費、会費などをいろいろ工夫して運営しているという話でした。

3番目の子どもシェルターについて話された方は、いじめや親から虐待されたり、いろいろな問題があつて家にもいられないような子どもを支援しているという団体の方でした。

この団体は、札幌弁護士会が関係しているようですが、その有志が、家がなければ始まらないということでスタートし、現在は、シェルター（家）し、6人で満室ですという話もありました。ここもそれなりの予算規模を持っていました。

最後にコーディネーターの方が、今までの団体の方の話をとりまとめ、さらにいろいろな裏話をされていました。先ほどのお金をどうやって集めるのかとか、広報はどうやっているのかとか、そういうことをまとめて、これからのNPOの運営やノウハウ集をまとめようとしていました。

私は、そのときは余り発言せずに、客観的に聞くようにしていました。その2時間半は

なかなか充実した時間で、技術者から見てもそんなに違和感のない集会でした。

○寺田座長 お話を聞いていると、私も出席しておりますが、様子が思い浮かびました。

二つ目の議事は、平成29年度事業計画の概要についてです。

○事務局（古野市民活動係長） 平成29年度は、今までと切り口を少し変えていきたいと考えております。待ちの姿勢ではなく、外に出ていくということをキーワードに事業展開を考えております。

重点目標は、スタートアップ支援の強化、特に子ども・若者へアプローチするための新たな取り組みに力を入れていきたいと考えております。

そこで、新規事業は二つです。市民活動マッチング事業と市民活動出前講座を予定しています。

マッチング事業については、今年度予定しているアンケート調査を根拠に行っていきます。団体の中でも、子ども、若者へ向けたプログラム展開をしたいと思っているのだけでも、どこに持ちかけていいかわからないという団体がいると思います。そういった団体と児童会館等の子どもをつなぐサポートを行いたいと考えております。

2点目の出前講座についてです。こちらは、我々サポートセンターの職員が小学校や児童会館に出向き、市民活動を伝えるためのワークショップなどを行う事業です。

先ほど、市民活動促進学生プロジェクトの学生が毎年啓発ゲームを開発してくれているとお伝えしましたが、それをお披露目する機会がなかなかないことを残念に思っております。ぜひ、それらを活用する機会として学生と一緒に、啓発ゲームを使ったワークショップなどを出前していきたいと思っています。

このような新規事業を通して、市民活動の活性化や新たな担い手を生み出すために、人材の発掘及び育成を目指してまいります。

次に、レベルアップ事業です。三つの分野に分けて説明いたします。

一つ目が、情報発信に関するレベルアップです。サポートセンターの情報は、ホームページ、メールマガジン、情報誌「みんなのしみサポ」で主に発信しておりますが、さまざまなツールを使って時間とお金をかけて行っているものなので、見てもらえる広報、読んでもらえる広報にしなくてはいけないと考えております。

ホームページについては、既にご存じとは思いますが、さっぽろまちづくり活動情報サポート『まちさぼ』が開設されております。それに伴って、サポートセンターが管理運営していた、さっぽろまちづくり総合情報ポータルサイトの団体検索機能やイベント情報などの機能が『まちさぼ』に移行しました。今までの総合情報ポータルサイトは、サポートセンターのホームページというふうにシンプルになりました。

それに伴って、札幌市市民活動サポートセンターのホームページも、まちさぼのデザインに寄せて、統一感のあるものに変更したというのが今年度の1月以降に行っている作業です。せっかくこのタイミングでホームページに手を入れ始めましたので、来年度、これを機会にサポートセンターのホームページの内容をスリム化したいと考えております。サポートセンターのホームページのコンテンツなどについても、後ほどご意見いただければ

ありがたいと思っております。

そして、相談事業に関する分野です。こちらは、相談の実施日・実施時間帯の多様化に力を入れました。税務・会計相談は平成28年度までは、月曜日の午後または夜間という設定だったのを、土曜日の午前を増設いたしました。法律相談については、月曜日の午後のみでしたが、夜間も新設いたしました。日常的に幅広い相談に対応できるよう、職員と相談員のスキルアップの機会もふやしたいと思っております、相談員と情報交換の機会を2回から3回に増設いたしました。

最後に、研修学習に関する分野です。はじめて講座、NPO法人設立講座、サロン事業を挙げておりますが、特にはじめて講座については、年4回実施のうち1回は大学への出前講座を検討しております。できれば、NPOインターンシップの参加者増につなげたいと考えていますので、早めの時期に取り入れたいと思っております。

大学の先生等に打診しているのですが、まだ確定までいけないところがございます。

今年度の重点目標は、平成28年度に引き続き、子ども・若者世代へのアプローチとしておりますが、札幌市の方向性としても、退職後の元気なシニア層に向けた働きかけという視点も盛り込みたいと思っております、はじめて講座の対象者を限定して行ってみるのもおもしろいのではないかと考えています。「シニア対象のはじめて講座」など、内容にメリハリをつけた実施にしたいと考えております。

最後に、サロン事業です。平成28年度、話題提供者に来ていただいて、お話をしながら課題共有と考えていましたが、学習会的な実施形態になった面も多かったため、平成29年度は、参加者同士が課題共有できるような内容にしたい、そのためにも、職員のファシリテーションのスキルアップを目指していきたいと考えております。

以上、平成29年度の新規事業、レベルアップ事業をピックアップしてお伝えいたしました。

○寺田座長 ただいま、事務局から、来年度の重点目標、新規事業についての提案を含めまして、平成29年度の事業計画についての説明がございました。

委員の皆様からも質問やご意見をいただければ幸いですので、ご感想でも結構ですが、いかがでしょうか。

○草野委員 先ほどの平成28年度とつながってくるのですけれども、これから実施するアンケートを参考に来年の計画をとという話だったと思うのですが、そのアンケートはどのような内容、とり方を考えているのか、教えていただけますか。

○事務局（佐藤指導員） 前は児童会館とNPOがつながるというアンケートだったのでけれども、今回は、子ども、若者とNPO団体、市民活動団体がどうやってつながっていくかについてアンケートをとりたいと考えております。

NPO団体が子ども、若者にどういうふうに自分たちのスキルや持っているものを提供していけるか等を検討し、これから新しい事業などを考えていきたいと思っております。

○草野委員 わかりました。

僕がご提案することは、少し話がずれてしまうかもしれないのですが、参加者が減った

り、どれがよくてどれがよくないのかということアンケートで評価していくのは結構難しいのです。最近、うちの団体も始めて、NPO業界にも来ている調査手法なのですが、NPS、ネット・プロモーター・スコアという調査手法がありまして、これは一つの質問でいろいろなことがわかるのです。例えば、イベントに参加した人にアンケートをとるのですけれども、その中で、このイベントをほかの人にお勧めしたいと思いますかという1個だけの質問なのです。これを10段階でしたい、したくないというふうに評価するのですが、おもしろいのは、9か10をつけた人は2人ぐらいにお勧めするようなのです。8より下だと、実は意外といまいちだという話で、5人ぐらいの人に、おもしろくなかったよと逆な評価を拡散してしまうということがわかる調査手法です。

これをどのイベントでも同じようにとっていくことができると、この講座は、参加者は少なかったけれどもよかったね、満足度が高いね、逆に、このイベントは参加者が多かったけれども、どうも満足度は余り高くなさそうだというのが見えるやり方なのです。企業も最近入れているようです。

NPOは、外の人たちからどう見られているのかという評価をもらうことはほとんどなくて、ヒアリングすると、皆さん、いいことしか言ってくれないのです。アンケートも、これから何が見えるのかというのはわかりづらいのですが、僕がお話しさせていただいて同じ手法でとると、意外と冷ややかです。

世の中は、NPOとかボランティアに対しては、どこかで少し距離を置く見方をしているのだなと数字でばんと出るのです。そうすると、来年度の事業につながりやすくなってくると思うので、そういう意味では、事業評価とアンケートが近くなってきて、エルプラザの事業の中でも、何がいいのか、何が悪いのかというところが見えやすくなると思うので、僕はNPOを広めたくて言っているのです。ここがあると、NPOが広がるのではないかという期待も込めて言っていますので、ご検討いただけたらと思います。

○寺田座長 貴重なご意見をありがとうございます。ぜひ、何かの機会調べてやってみてください。

○隼田委員 幾つかございますけれども、まず、ホームページについてです。

以前もお話をさせていただいたのですが、全面的にリニューアルされるということで、使われているCMSというコンテンツ・マネジメント・システムと言われるものがちょっと古かったり、セキュリティ上の問題も出てきているので、本当に全面的につくり直さなければいけない時期が来ていると思うのです。ですから、しっかりお金をかけてやっていただきたいと思います。それをやるに当たって、私がこちらといろいろと関わりを持たせていただいたのはウェブからだったのですけれども、当初の総合情報ポータルのときからずっと幾つかの団体からいろいろな意見が出ていました。今回、これまでの問題は大部分解消したと思うのですが、多分、今でも、各団体が意見をお持ちだと思います。ですから、市民団体や学生を交えたワークショップのようなもので、どういうウェブサイトにしたらいいいのかというプレストを何回かやるのはいかがでしょうか。Webの構築は、業者と契約を結ぶことになると思うのですけれども、できれば業者もそこに入ってもらって仕事、

さらに市民活動促進学生プロジェクトの学生をインターンシップのような形で入れるとい
いのではないのでしょうか。以前も、業者にインターンシップとして学生がさんかしてあの
ページをつくったのですけれども、そういうような形でかかわらせていただくと、参加
している学生らも市民活動に理解を深めるでしょうし、現場というか一般市民目線の内容
がより反映しやすくなると思います。

時間がかかると思うので、新年度の早い時期にスタートしていただけるといいなと思
いました。

もう一つも、ウェブ絡みです。プッシュ型の広報の実施でメールマガジンの内容を検討
とありますけれども、フェイスブックでイベントを告知すると、その地域に住んでいる人
に対して、今、こんなイベントがありますということをプッシュしてくれるのです。そう
いうことに興味を持っている人に関しては、履歴をチェックして、フェイスブックが勝手
にこんなイベントがありますとどんどん推薦してくれるので、それを使わない手はないと
思います。今、確認しましたら、9月のエルプラまつりはそこで告知しているのですけれ
ども、ほかのものに関しては告知がされていません。

そこで申し込みもできるのです。イベント参加希望もできるので、そういうこともやる
とプッシュ型として結構機能するのではないかと思います。

当然、メールマガジンもフェイスブックとのハイブリッドでやられるといいと思いま
した。

市民活動促進学生プロジェクトでつくったゲームとか、今つくっている子ども向け絵本
を使ってワークショップをやろうというアイデアはいいと思いますし、そうしていただ
けると、学生たちも制作物が使われているということで、喜ぶと思います。卒業した子
たちもいますけれども、そういう子たちにも報告しやすいので、ぜひお願いしたいと思
います。これも、できれば早い時期からスタートできるといいと思います。後ろに固まると、
非常に忙しくなってしまうので、学生側が回らなくなってしまうので、1年間で均等にば
らけるように組めればいいなと思います。できれば年度内にそのあたり打ち合わせをさせ
ていただければうれしいなと思います。

もう一つ、これは感想ですけれども、NPOはじめて講座をシニア対象に絞ってやる
というのは、すごくいいアイデアだと思いました。やはり、若者とシニアでは興味や視
点が大きく違うと思うので、そのあたりを絞って、対象の人たちに合った内容でモディ
ファイしていただくと、よりいいのではないかと思います。

また、大学で実施というのもすごくいいと思いますので、言っていただければ、うち
の大学でもやらせていただきたいと思います。

○中田委員 言う機会がなかったのですが、ちょっと戻るのですけれども、平成28年度
の利用状況についてです。

先ほど、前年度に比べて達成率が大分落ちたという話もありましたが、私が見る限りは
平成28年度12月と平成27年度12月を見ても、1,000人とか1万人とか、そん
なには減っていないような気がします。それよりも大事なものは、そこに参加している人の

満足度とか、狭いところに押し込められて聞くよりも多少ゆったりとして聞いたほうが身につくだろうということもあります。

それから、先ほど季節的な変動を分析してはどうかという話もあったので、それについて私が考えましたのは、年度で4施設の件数、人数が出ているので、まず表をつくって、数年分を分析してみたいと思います。

あるいは、件数と人数があれば単純に1件当たりの人数も簡単な式ですぐに出ますし、推移がとれるので、その辺もやろうかと思っていますので、

○寺田座長 まだ、この後も議題がありますが、ここまでで、ぜひこれは言っておきたいということはないでしょうか。

○宮本委員 今の事業計画の最後のサロン事業の中で、スタッフのファシリテーションの力をつけなければという言葉があったので、言ったほうがいいかなというか、聞きたいと思ったのです。

今までサロン事業をやってきて、スタッフが進行役に入って、どんなことで困ったのか、何でもっと力をつけなければと思ったのかというところを聞きたいと思いました。

○事務局（古野市民活動係長） 団体の思いを引き出す力や、団体自身もまだ自分の中で言葉にあらわせないもやもや感に対して何かフィットする言葉が見つかるという感じながら事業をすることが多いです。

サロン事業というのは、一つのテーマに関心を持って集まったいろいろな団体同士をつなげることで新しい展開が生まれていったらいいなという目標設定をしている事業なので、それぞれの団体のいいところを引き出していくサポートができるようになったらと感じています。

○宮本委員 ありがとうございます。

今、即答できないですけれども、基本、聞いてあげることができれば場は十分に回っていくのではないかと気がしていますし、皆さんはそういう力をすごく持っているのではないかと日々思っています。

あとは、もしかしたら、スキルではなくて、場の設定そのものですね。適切な人数とか少人数の時間をとったほうがいいというやり方とか、答えやすい問いになっているとか、そういう場の設定みたいところで、もっと居心地がよく、言いたいことが言えるという環境づくりはできるかもしれませんね。

○瀧谷委員 相談員研修についてですが、相談員は、得意分野などがあるのですか。

例えば、ウェブサイトのことだったらこの相談員だとか、相談員の中でも得意分野を持っているのか、税務とか法律の時間帯に合わせて来なくても、相談員の中で、目標ではないのでしょうかけれども、来年はこういうことに特に力を入れていきたいと思います。とあると、より専門性の高い相談も受けられると思いました。

○寺田座長 今のご意見、ご質問に対して、相談員の状況を少しお話いただけますか。

○事務局（古野市民活動係長） 今、市民活動相談の窓口に座っていただいているのは、市民活動の実践者の皆さんです。それぞれ実践している活動の分野が違いますので、それ

それぞれの分野に精通している方をお願いしています。子ども・子育て関係の分野であったり、国際交流の分野であったり、その中でも助成金を取るのが得意な方とか、NPO法人設立に関して精通している方とか、それぞれのスキルを掛け合わせて相談に対応していただいています。

やはり、税務、会計のことを聞かれると、基本的なNPO法人としての書き方とか質問には答えられますが、専門ではないから、それ以上の税金のことについては税務・会計相談があるから予約したら、という感じで回していただいています。

○中田委員 何人ぐらいいるのですか。

○事務局（古野市民活動係長） 今、相談員は5人です。火、水、木、金をローテーションで対応しております。

○奥山委員 今、数字のこととか、アンケートのことが出たので、申し上げます。

将来的にここを管理するということで、見える数字はとても大事なのだろうと思うのですが、すけれども、極端な話、一つセミナーをやったときに、100人が聞いて、いい空間で、ああ、満足した、満足と。それでは何にもならないと思うのです。

その先で、5人しか受けていなかったけれども、その5人が自分のところに持って帰って、何か変えていった、何か進んでいったということがあると、100人が聞いているよりも意味があることだと思うのです。特に、市民活動とはそういうものだと思うのです。もしやっていたらごめんなさい、アンケートを見たところ、終わった直後に満足、やろうと思ったみたいなのを出して終わりなのかなと思うのです。例えば、一定期間、3カ月とか半年たったときに、具体的に何か取り組みましたかとか、セミナーを受けて役立ったことを利用したことはありますかみたいなものをとることができれば、それも一つアピールの材料にもなるし、それに取り組んだことの多いセミナーは得るものが多かったのだろうということで、レポートしてやる意味も出てくると思います。

ですから、アウトプットだけではなく、アウトカムとかインパクト的なところも考えていただけるといいのかなと、ファンドレイジング的な目線で思いました。

○寺田座長 ありがとうございます。

ほかに何か意見はございませんか。

○高橋委員 新規事業の市民活動出前講座のところ、小学校や児童会館に出向きとあるのですけれども、小中高大というふうにあったら、児童会館は小学生の利用者が多いと思いますが、小学校を対象を絞っている理由は何かあるのですか。高校生のほうがいろいろなニーズがあると思ったのです。

○事務局（古野市民活動係長） 児童会館というと0歳から18歳までを含んでいるため、私たちが児童会館というと高校生まで含めて対象を設定していますが、一般的にはイメージがわからない面もあるようなので、アンケートの対象者は子ども、若者というふうに言葉を変えました。決して小学生のみにフォーカスを当てているわけではなくて、子ども、若者世代に向けたアプローチと考えています。

出前講座についても、児童会館はふりーたいむという事業をやっているとして、中学生は

夜7時まで、高校生は夜9時まで児童会館を利用することができるのですが、その時間帯に利用している中学生、高校生に向けた市民活動団体とのつながり、そこでのワークショップも考えていますので、決して小学生にというふうには考えていません。

また、小学校という言葉を入れたのは、我々活動協会は中学校よりも小学校のほうがつながりが強いものですから、始めるのは中学校より小学校かなというところから設定しています。行く行くは中学、高校まで広げられたらと考えております。

○高橋委員 常につながりのあるのは小学校のほうがいいということがあると思うのですが、今、子ども食堂とか、私たちのところもそうなのですが、大学生もそうなのですが、高校生がすごく参加しているところが多いのです。清田高校では、1人1ボランティアということで、必ず1人がNPOに自分から行ってボランティアをするという仕組みがあります。そういった個人としての動きもそうですし、学校としての動きもあるので、そちらのほうがニーズとしてあると思うのです。やはり、ボランティアをする上で、やる側の気持ちが一番大事だと思うのです。やりたいことをやる、その形態がボランティアというものだと思うのです。ですから、常につながりのあるところからアプローチするというのも大事ですが、それとあわせて、ニーズのあるところにもアプローチしていくというのにも必要だと思いました。

○寺田座長 両局面からということで、貴重なご意見をいただきました。

ほかにご意見はありませんか。

○隼田委員 今のご意見で感じたのですが、NPOはじめて講座で大学生向けに出前というものがありましたね。多分、小学生とか児童会館でやるワークショップは、こちらのキッズページみたいなコンテンツを使ってやっていくものだと思うのです。ただ、高校生になると、大学生向けにやるものときほど変わらないでできることが多いと思うので、逆に高学年向けは大学生から少しずつ下ろしてくるといいと思いました。

ですから、次年度に大学生をやったら、その次は高校とおろしていくと、やりやすいのではないかと思います。

○寺田座長 手法も教えていただいたので、きっとできるのではないかと思います。

それでは、ちょうど時間もいいところですので、もし質問がなければ次に進みたいと思いますが、佐藤課長、感想も含めまして、いかがでしょうか。

○佐藤委員 いろいろなご意見をありがとうございます。

札幌市としても、全ての世代にアプローチすることによって、どちらかというNPOが苦手だと思っていられる世代も含めて、広く取っつきやすいものになるのが一番なのかなと思っております。

来年度の事業を聞いたときに、お子さんからシニア世代までと、かなり幅の広いものをつくりあげてもらったという意味では、私たちもよかったと思っております。

この講座が皆さんに満足されて、この後にもつながっていくということがとても大事だと思いますので、先ほど草野委員がおっしゃったNPSの手法でしたか、私はよくわからなかったのですが、そういうものを活用することによって、参加者の充足率だけで

はなく、満足度が高いものがどんどん外に広がるきっかけになるのではないかと考えております。

行政もそうですけれども、自己満足にならないような形で、さまざまな事業展開をしていただければと考えております。感想でした。

○寺田座長 ありがとうございます。

それでは、最後の議事は平成29年度4月の入居分、事務ブース使用団体の選考についてです。この件に関して、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（古野市民活動係長） 最初に、事務ブースの現在の利用状況についてお伝えいたします。

現在、19区画あるうち、17区画が使用されていて、あいているのは2区画になっております。3年の上限を満了して退去する予定の団体が3団体でその他2団体から3月末で退去の申し出があったので、合計7区画が空く予定になっています。

新規団体が入居したとして、残りの空間をどのように有効活用するのかという課題があります。

我々の方向性としましては、まずは、あきを埋めることを最優先に考えたいと考えています。そのため、今まで入居時期を4月と10月と限定して行ってきたのですけれども、今年度、追加募集ということで、6月もしくは7月から入居できるような再募集を行いたいと考えております。周知の方法についても、今まで、広報さっぽろ、札幌市の公共施設でのチラシ、エルプラザ館内でのチラシ、ポスターでの周知だったのですけれども、ボランティアや民間の情報誌も使いながら周知する、あるいは、事務ブースのリーフレットを作成するなどを行って、このスペースのよさを積極的にアピールしていきたいと考えています。

市民活動団体が事務所を構えることの難しさや、使用年限は3年が上限と制限されていることがありますので、このブースに入居するメリット、付加価値を私たちのほうでも考えていきたいと考えております。ぜひ皆さんからは、こんなメリットがあればいい、こんな付加価値があればいい、こんなところをアピールしていったらどうかなどのご意見をこの場でいただけたらと考えております。

そして、もう一点、検討しているのは、1区画を相談用に確保することです。現在の事務ブースをご存じの方も多いと思いますが、パーティションで区切っているだけで、完全な部屋ではないので、声が漏れるという課題はございますが、法律相談など内容がどうであれ、弁護士と相談している姿を見られないような配慮も必要かなと考えております。相談員や弁護士、税理士とも相談しながら、必要に応じて事務ブースでの面談も可能とするなど、相談場所について選択肢をふやすということが市民サービスの向上につながると思っております。この件についても皆さんのご意見をいただきたいです。また、この相談コーナーを設置してみて効果が上がれば、以前話題になっていたような個別の面談室の設置も具体的に検討していけるのではないかと考えております。

○寺田座長 今、事務局から説明させていただきました事務ブースの有効活用という点ですけれども、ご意見がございましたら、ぜひお願いしたいと思います。

○中田委員 質問です。最大3年までの更新というのは、1年ごとの更新で、3年たったから強制的に退去になって、継続はできないということでしょうか。また、現在の更新は、どのような状況になっているでしょうか。

○事務局（古野市民活動係長） 現在のところ、条例では3年となっていますので、3年を過ぎている方について、継続のお声かけはできない状態です。

○中田委員 1年、間を置いて再び借りることはできないとか、永久的なものなのですか。

○事務局（古野市民活動係長） 今のところ、1年置いてとか、間を置いたらもう1回チャンスがあるという扱いではないです。

○中田委員 それだけ人気があって競争率が高いから同じ人に何回も使わせないということですか。

○事務局（古野市民活動係長） 多くの人に機会を提供するという意味では、同じところが何度もというのは避けている状況です。

○寺田座長 あくまでもブースは設立支援ということで、初めて手がける人の補助事業のような形なのです。そういうことで、やらせていただいております。

ほかの方から、いかがでしょうか。

○奥山委員 今のことに関連して申し上げます。

よく助成金でも、最初の3年だけとかということだと思いますが、もちろん埋まれば埋まるのが一番いいと思うのですけれども、どうしてもあいてしまったら、例えば、1カ月お試しで使ってみて、使い勝手がいいと思ったら、次のときにその人は申し込みをするかもしれないし、お試しで使える期間を1カ月でも1週間でも、場合によってはマンガ喫茶みたいに1日単位でもいいと思うのですけれども、そういうものがあると、入り口の会議室ぐらいまでは行くのですが、あの奥がどうなっているのかが全然わからなくて、私自身、そういう団体を持っているわけではないのですけれども、申し込むかどうかをちゅうちょしてしまうところもあると思います。お試しがあると少しハードルが下がるのかなと思いました。

○寺田座長 お試しですね。ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。

○高橋委員 3年から延ばすという考えは一切ないのですか。

○佐藤委員 私の一存でどうこう言えないのですけれども、最初のころは、駅から近い利便性の高いところで、確かに狭くて防音設備もないようなところではありますけれども、この金額で使えるということで、やはり、ある程度人気が高い場所だったのです。今、実際にこんなに空いているのが不思議ですけれども、今ここで、延ばしますとお答えすることは難しいと思います。

もし、恒常的に空きがあったままで、入っている人たちから、とにかく長くしてほしいというご要望が強ければ、改めて考えることはやぶさかではないのですけれども、これまでどのぐらいの状況で空いていたのかということがはっきりわかっているわけではないので、現在、これだけ空いているから、すぐに延ばしましょうと判断できないので、今すぐ

はお答えできないです。

○高橋委員 3年間で軌道に乗せるというのは、相当ハードルが高いと思うのです。

ですから、実際のNPOを運営している側として、実態と即していないという印象を受けました。ですから、可能であれば、3年から5年で、可能であればその制限はなくしてほしいのですけれども、それがハードルとなって途中で抜けざるを得ない方もいれば、どうせ1年しかいられないから更新はしないと考える団体も出てくると思いました。

○寺田座長 参考にさせていただきながら、札幌市とも相談していきたいと思っています。ほかにいかがでしょうか。

○草野委員 3年は大変ですよ。うちも、昔、ここではないのですが、出なくてはいけないということがありました。ただ、市民活動プラザ星園もありますので、そちらへうまくナビゲーションすることが大事だと個人的には思っています。

全然違う切り口でのアイデアで、前からお話していますけれども、ここの活動している場所の一番の特徴は、北海道で一番若者が出入りする市民活動拠点だと思っていますので、この強みを生かさない手はないだろうとずっと思っています。

例えば、市民活動促進学生プロジェクトがありますけれども、もしブースがこのまま空いていくのであれば、自分でプロジェクトを起こそうという講座を初期段階で行って、その後、事務ブースもついてきますという形で、学生なりが自分でプロジェクトを起こしてみようというところを通年でフォローアップしていくような組み合わせにしていくと。

何がうれしいかというと、私がそうだったのですが、自分たちの机があるというのは意外とうれしいのです。ちょっとたまり場があるというのはうれしいのです。ですから、チームで3人くらいでもいいのですが、何か新しい企画を起こして、リーダーを決めて、1年間で活動を実践してみようというときのブースまでついてくるというのはうれしいと思います。既存のやっている事業とあいているところを組み合わせた切り口を考えてみてはいかがかと思います。

○寺田座長 そういう隠れ家みたいな場所があると学生は集まるという感じがしました。

○瀧谷委員 草野委員の意見に似ているのかもしれませんが、来年度の計画ではじめて講座とか設立講座を少しレベルアップしていくということなので、そういうところに一緒に案内というか、積極的に来ていただいていた方に事務ブースの宣伝をするのもいいと思います。既にされているのかもしれませんが、そう思いました。

○中田委員 私もいいアイデアだと思うのですけれども、既存で借りている月1万円の人との公平性をどうやって調整するかというところがあると思います。支援という面ではもちろん賛成ですけれども、その辺が気になりました。

○草野委員 それは、7月の追加募集のときに、ちゃんと申し込みをさせるといいと思うのです。同じような企画書を書かせていくのが筋ですけれども、これは条例も関係してくる話なので、先ほどの相談ブースの位置づけは条例を気にせずにあいているからやるということだと思いますが、同じようなスタートアップのところのブースを一、二個つくって、少しい自由度の高い席を用意しておく、次の新しい発想があると思うので、そこ

を確保するのが先かなという気がします。ブースではない使い方ができる空間をつくれるかというところで、これは札幌市と協議なのか、そういうものはありますか。ブースを2個だけ違う使い方をしたいということですね。

○事務局（古野市民活動係長） 札幌市とも相談した際、事務ブースのスペースを違う目的で使用して収入を得るのは条例上不適切ですが、あいているスペースをどう使おうかというのは、我々の使い方としてある程度幅を持たせていただけると感じましたので、相談コーナーとしてもいいのかなとか、今まで、話題にはなっていたけど手を出しきれなかったところに手をつけてみようかというところまで来たのです。

先ほど、草野委員の学生プロジェクトに事務ブースがついてくるというご意見がありましたが、私も大学生200人ぐらいのボランティアに協力いただいた事業を行っていた際、がなかなか主体的な活動にならなかったという反省があります。もし、部室みたいなところがあればもっと自主的な活動になるのではないかと思っていたこともあるので、可能であれば、そういった事業展開も進めていきたいと思いました。

本当にさまざまなご意見、アイデアをいただきました。それぞれ条例で決まっていることなので、すぐにどうこうということができないもどかしさがありますが、ぜひ今後も札幌市さんと協議させていただいて、次期指定管理も目の前にありますので、試行でできることやチャレンジさせてもらえるようなことがあれば、進めていきたいと思います。今後も札幌市さんと調整させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○草野委員 今の話で、まさにNPOと協働できたらいいと思うところなのです。今、条例でブースをお貸しできないというのであれば、例えば、僕みたいな物好きがいるのです。そういうところが学生やプロジェクトをつくることを応援したいNPOにブースを1年間借りてもらって、その席を学生に貸すという形であれば、NPOと協働事業になるのです。今やりたいことが合致すれば展開できると思うので、それは、考え方と、どこと連携するかの話で、切り口はいろいろあると思うのです。僕のような物好きがいますというだけなのですけれども、そういったアイデアです。そういうこともできると思います。

○中田委員 ちょっと誤解があるようなので断っておきたいのですけれども、学生に貸すのは全く問題なくて、他の方と同じように月1万円の使用料を払うということで、いいですね。

セミナーにくっつけて、ついていますよというのは、無料で使っていていいみたいなふうに受け取ったのです。公平ならば結構です。

○草野委員 一応、ここはスタートアップという位置づけだと思うので、そういうことは言っていないんですけども、違う意味で大丈夫だという話であれば、検討する余地はあるという気がします。今、この場ですますとはいわずらいますけれどもね。

○事務局（高橋市民参画課長） 予算の面について補足いたします。

指定管理費用において、事務ブースの利用料が収入として積算されています。また、市民活動さぼりとセンター条例でも、一つのブースに対して月1万円という積算額が読み取れます。

例えば、草野委員がおっしゃったように、NPOと学生のマッチングを考えるのであれば、我々は指定管理者ですので、利用料の1万円を無料にするという考えより、指定管理者の努力でよさを生み出すという考えでいけると、もしかすると可能性があるのではないかと、思っております。条例も鑑み、今後の検討材料としていければと思っております。

○隼田委員 今の議論をお聞きしていて、思い出した事例があります。

うちの大学もありますが、インキュベーションオフィスとかアントレプレナーシップセンターみたいなものを持っているところは、大きいところだと貸しオフィスみたいなものを用意していて、スタートアップのコンテストに勝ったところは1年間無料で入れますという特典があって、育てていっているのです。これは、民間企業を起業するためのものですけれども、NPOでもそういうことをやってもいいと思いました。

ですから、そういう形でコンテストをやって貸しスペースが1年間ただで供与されますということをしてあげるのも一つの手かと思えます。

それで、1年間である程度学生たちがうまいぐあいに回せるようになったら、そのまま3年間借りることができるとか、1年使っているから3年ではなく2年借りることができるとか、そういうような権利を付与してあげるというのも一つの手だと思いました。

○宮本委員 意見というか、感想になると思います。

空いているところをどう使うかというのは、すごくワクワクするし、楽しいですね。かつ、今の事業にプラスアルファの効果が出てくる使い方ができるという話はすごく楽しいと思って聞いておりました。

ただ、それもおもしろいと思うのですが、先ほど高橋さんが言っていたように、今入っている団体が本当に3年で出るということに対して、まだ途中だとか、もう少し欲しいという声があるのかどうかというのが気になるころだと思っています。これも、条例であったり、貸し出し要綱の範囲で変えなければいけないところになると思うのですが、今活動している方たちがより力をつけていくことを考えたときに、3年というのはどうなのかということを知りたいと思っていました。

と言いながら、新しい使い方の一つのアイディアなのですが、期間限定もいいと思っています。先ほどのお試しもあると思うのですが、私は前に市民活動スペースアウ・クルの事務局をやったことがあって、そのときにいろいろな団体が使いたいというところがあった中で、夏のイベントの実行委員会があって、そのときだけ集中して事務ブースが欲しいとか、物を置く部屋が欲しいというところが幾つかありました。

そのときは、空いているところは8月まで、9月までというふうに本当に使いたい期間だけというふうにやっていたところもあったので、もしニーズがあるのであれば夏のイベントの実行委員会とか冬の何かも聞いてみていいかもしれませんね。

○寺田座長 たくさん意見が出ましたが、事務局から次の議題をお願いします。

○事務局（古野市民活動係長） 今回、事務ブースの使用について2団体の公開面談を実施することになります。また、現在入っている団体の更新の審査があります。

そこで、前回と同様に、札幌市市民活動サポートセンター事務ブース貸し出し要綱第6

条及び7条に基づいて選考委員会を設置し、書類選考と公開面談を実施します。また、選考委員会については、運営委員の皆さんからお2人の推薦をお願いいたします。

○寺田座長 今の説明にありましたとおり、この中から選出をお願いしたいと思います。

自薦、他薦は問いませんので、いかがでしょうか。ぜひ、やっていいという方はいらっしゃいませんか。

事務局は何か案をお持ちですか。

○事務局（佐々木市民活動担当課長） それでは、今回はお2人ですが、まず、実践者の視点からということで、草野委員をお願いしたいと思います。また、税理士の視点からということで、運営の審査もしていただけるのではということで、瀧谷委員をお願いしたいと思います。

○寺田座長 今、事務局から案が出されてきて、草野委員と瀧谷委員をお願いしたいということですが、よろしいでしょうか。

では、拍手をもってお願いします。

○草野委員 申し込まれている方に、どういう形で面接をするのかということをもう少しお伝えしたほうが良いと思いました。皆さん、余りわからないで来ているような印象があったので、そこをリクエストします。

○寺田座長 議題は以上になります。

最後に、これだけは言っておきたいということはいかがでしょうか。

○隼田委員 先ほど、事務ブースを相談コーナーとして使うこともというお話がありました。それがうまくいったら改修することも将来的に考えられるかもしれないというお話だったのですが、そこで若干懸念があるのは、声が通ってしまったり、通る人に見えてしまったりすることがあると思うので、場所の設置などは十分に配慮していただきたいと思います。また、その結果、どのくらい使われるかということだけではなく、そういうニーズをお持ちの方からのフィードバックをしっかりと回収していただければと思いました。

○寺田座長 それでは、ほかになければ、これで議題を終了させていただきます。

皆さん、ご協力を本当にありがとうございました。

以 上